栄花物語

類

かのえぢくハ

園林文庫

類

そのゝちはまへ世まのうそぶめさせ給てのちゆめ
めぐハ二代ゆあるべき世給ゆ。やうに世ハ廿三ゆ年
ゆ。ゆ。ゆ。

あ〜てさそぐさを沿おろんつよハぺてさまで
うおぼさ沿てとつざらあ〜ぺつ沿ぼどに
おろんちまいあ〜ぐ沿ぼさ沿まハぺく
もゆめさうぐ〜くさうえさうるんぐろ沿ん
ちふるうろ〜ぺつぐ沿ぼさるれぺ沿れた
びてそハぺざらるあまとぺんぼそく沿ぼ
さ沿ぺのぺろ〜あぐあるいとおそ沿
しうおぼ〜あぐろに沿ぐ沿てに沿れ
ろろく〜ぺ沿ぺんちのさ沿あろぺつまだ
ろろ沿ぺふぺぺおぐさ沿いつまぺ〜ぺ沿ぺく
あらさまどしぐ沿ハぺるしみえぐぺと

ろるぐ〜せさを沿ぐすまく〜まぐ沿地のみの
のあるゆ〜ぺぼにさも沿てゆるもある
ぺてこのかろにさもあるあぐきてぺれの
ぺろぺてぬるぺちぺ〜あやぺ沿てぐもを
ぐゆ〜あ沿ぐさてをんれどろにせをぐ〜ぐ
せ沿ぐあろひる沿ぺありさ沿てあまこの
ぐ〜ぐをぐさぐ沿れぺ世のぺもいぐお
そ沿ぐ〜さてに沿のひゆ〜ぐれんるる
あるべさゆろ〜ぐあるぐ〜めれぐぺろ
沿そく〜ぐ沿ぺろ沿ぺろれぺれぺあ六七
ぐぺらあらてぐぺぐべていろぐめ〜しおろん

あやまちあらしやうの海くでおりあるさん
ゐるみこさせ給はざりしかばこそ
かぐらのあれはあるべきにはいのあ
そしはせばこのこびもおとこあせ給あんせ
ゆくもあらぞのこひのはあやまちまろ
いとよきさんしやどものあはまこそやとた
のりかりしかあるうたのろんどそこそやう
ろんあんあんのそこそやうるどなるべてお
らざりしんこそあらぞんどそこそどやこはや
ぐそこのこうちふさわひ給よぞこそうづく
さあこはどこのはあやまおこあせ給へ

つまとこそこそはこでうの花そうどやうよはあ
させ給へんあんやうどもはあはみちはと
あどいとかこさびこらしあどもみてやと
あるまあやあわしくこるうどころうさ
せ給てこそうるべくゆきまれば羅京
敷の西伯の法いるみどふりこせ給そお
ここせ給へこのまこをひこさく
給へにこせ給へとどのびゆきさせ給へ
どどべてこにいろもとおりひはこばこ
そあるめとそきこめいれどこそ仏
とこのこそせ給へうどうの法

[illegible]
[illegible]
[illegible]

とのゝはハさそれどそれハつのはとのゝさう
きこしめいれどこのうでしくそいこゝを
てんとのゝはハさそるをだうやあをいゝをハ
しこゝうづうのおりんうをまうをゝはべく
さきてさをゝはうくあひおゝし
めさぬちうきりとうこみゝさをゝはへば
いうくくとのこそゝをびをゝはりのを
どもいとおそうくゝうゝををまひれこ
とあうばおゝやけをこゝのざいゝでい
ゝはこれうゝはうハあゝでとうゝとみこゝう
ぜんうゝんどのこうどやうあどみおおハこゝを

のゝおりんまうさうゝのゝはうをゝうをゝ
さそぐくををまうゝおうゝはうくあをゝ
中ゝはをれをゝはゝうゝさうゝくさをゝう
ゝあゝハあくをんををおりゝはをこゝとう
のきさそおんのあうゝごおハこゝをで為ゝ
ゝはゝおて持ゝはつゝはうをゝうどんおて
ゝをゝをゝうゝをゝうゝをゝうゝをゝうゝ
うゝをゝをゝうゝをゝうゝをゝうゝをゝうゝ
あをゝこれゝをゝはゝうゝこゝをのこのゝはでいを
これうゝざくくおゝやけのゝはうゝうこゝをゝう
ゝはうるゝうゝをゝうゝうゝうゝうゝうゝ

ねんてんらんぶんけんぶんあるべんちゃく
ておきこのみでこのおりんうちをつくう
まつるべしとあらうちんあくてもさはぬ。
あのぎんぞの貞信公ひとりこうおりこうる
人我をはたらきたるべしみてもたるべしみをのをとし
うをいたちたるべしみてこそハたゝ綱云ちぎ
みてさてもあらびはつりまれどぞはさら
ぶつぐちのみまりぢうハたてうのおと
どうちのかハたちたるべしてはたらはれど。
ぞはさのおりんちうのまたぜんおん
多聞院さうづきこおりあり十人のおの

こうづの中みなたちたるべしみてはたらはれ
みりうづきはいちひありうしぞれと名之
さてうやうちはたるうあるハこれうめハなたこ
とちうあるべうしためでうれはあらうあるべい
ひはぐまさなはたるとうしみはたるうたぬとも
さうしはうづちあるあるべいはゆくうしをとう
ぐうのまうてハあうづくやあんぞあうぬうのハ
尚はあなみてゆうしうしうこうづう
の一ふなのおりんうこれかさとをせぞ
ありうあうしうしあをとうやおりあるべ接
改のおうづくはいあをうれハさうもさはう

あんちゃんとこいひつぐをさせ給ふやうにあがらせ
きとあがらせ給ふれそうそくあらぐと
どあがらせ給ふ人はさらあもいらびきもくさ
せんのさきをしめくていはとくわん源殿給
めてぱぐしおろさせ給ふへもとゝろの
出ものいあれば屋ごとの殿はなれとがんの
とのゝ出てとのゝらみとやさせ給へばそ
くちおとゝ芝ゝ海ゝもいらぐぞそうつの所
ぐしおろ殿給ふとてしゝろのあひぐさあ
なあみて上さひもそぶやうをとのぎとくきく
くゝぷ法とのてみをおさあひぐさうのまゝら

ごくくてもくさせ給ふにあさらをあるそ
とさらとめでぐれ所をまくこゝろ所ぶ
うぐさうせさせ給をぐこ世ゝよおれうこび
給りんふぶぎんぜハ所ゝらのびこゝやくふぐら
ゝれどやらぐんゝしやうにのゆゝ世給ぐさか
つまぐ一ぬ文ゝひをうこ屋人うゝぶ文部の長
秋恒河海業春屋ざもみ海りるゝりのあゝ
いゝちんや海ゝものゝををやうぐおれ
みゝうゝゝゝゝ所ゝゝぐゝるゝぶみやくとれ
ゝゝうゝ所ゝゝ所ゝあひきゝく給ゝうゝとゝら
みゝ所ゝ。内出ゝゝ所ゝうゝひゝなゝあゝら

くてのちくばさらくもみたのかしさかくさてハ
せはあおろんあのけどもらくをしかりぬさ
むしとかざらあしかそれもひとこうれのしうき
うめをびるもあうせはさくにたりのく
けどもやうくうみうざりてゆいれうら
もこてるくうめをはてはうざめ
るどきうめもびりでうハりけのはる
しるれやういとくたのりくなる。
うびうもかうるせはをしをてう
の法隆寺をめしりでゆ孫はをてく
しかいうせはり法隆寺りうるがどる

ゆてふたのまうにかしかしのりびあきて
そのうぐうかりりうのりのそうた
ちりのくちうをつうしあうをは。
てうごれはるやうハ寛仁二年二月十七
日ふるきちやまはて火七日ふるのをせ
さはれハ日あがく桜さうまんざ
ゆべきそうちうこのうちうはあがさ
るせさはてゆうこうおりゆ
をびりうこのいんがしはうざう
こそうすうきもむもうせんとるんく
ゆべきうちるんさるのつうとうはう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちやにかくしのぶそのまさしくさをさしてくさをさしてかくしてもくちもくちもあるよれ中よ
ふれてそをさしぬぎさくなよ
じていらぢうあくせおしてはりんくへ〜
かくしてもくちもくちもあるよれ中よ
いうぢくそれのいろまこんぢさとのくれらこと
をやそ和泉國ちうまよ海いうをおの
ぬぐざうんごとぢめきさおのいろ
をきこぐこそこちまおとはんぢとやめ
せんぢくへし
こちくおうれその中ハあるてくる

そぢみあそぢをどゆくさしまちもはあり
ろくとのくいぢをうしくうくをくこと
えびのはるふうくるくけはくあぢくう
ちよまでさてまんのみやハあるゆはまの
たさのをとをさくてむまの中ハ
そぢのうろぢそくくくよをあさ水のをと
ををそむをゆ重ぢはくまてはくて
ぢみあいゆハんちまいさゆみあのくて
さをおぬれハぢざうのうえいうぢをおく
おはぬどのうをくまでさおぢやけ

ごとをはあるあめでぞ花はさくらのしるべ
きえとつくる雨つるべさはせごとの法師
とのの堂へもこれびいさこ所はとく
ちるらむぞこの梅びのあるべきあらと
の梅花てでとてくちるに梅雨
をこ初うを所をこあて梅ろさみてら
ちてらぶさこちるくみ梅しまこて
いこ花法師花もみくあく見
ちるもらをう梅されてるを
づらはを雨をこそ雨をこやうをるる
べこ雨法師をうこ人あをせるべきはこ

うくはくこ雨はちうづ花はれを
はあべてのこ雨みやはりまこをやう六
のこんをこの雨とををめこまちこ
はこちあぞるこを八雨とあこうを
ありてみちをとこの人はこせ法とこの
ちくまひこくく梅されびあれこの
をこちひも雨こちここ花も雨と
のごりこちここ花ごうのるをのこ雨
のくはを雨こ雨を法ちに梅雨の人
まいら雨ごこちらむこるべきとのいちを
ちこめこて雨ちこちこの雨雨雨雨

[illegible]ら一日に六百人のまをとりて海つるにう
だこ[illegible]をばうこと[illegible]ばしら。
[illegible]ふくのうえまたちて宮地ハとりあれ
ども。でい海ハこれほどうのまをあくさひく
ひいどうりうを[illegible]海いりたることを。
[illegible]もくさをとりはうう海つる。おほう
たりうさもさをもたる海いりたりてちかく
[illegible]くあうもくよはうう海つるおうたを
みまをハほとけつう海つるとりてぶりしど
も百人ばうりうまをとりてうう海つるはあり
くハこれをめでこけまをみのばうこれう

へをみあどれバうくうども二三百人とうう
あそはあさあるみハ海ときをうつ
きをとうをあるはてあうこうをひさわぎ
さいどのうのうをみまバほとをのは
有ほうのもうをいどうきをみまだ
をううどのうをあどうてハ百人てどう
あうあそみうさのどひうどがさうべあり
うううううあどうをはうてうどよ
はいうあるかうしあどのどうバうの
石をうハ海ろをてうあとくのあるをあ
まびけををはとて百人をうう海

とさゝひとそゝ百人をらゝちゝ
ちのゝこゝとみまゝばゝらがゝらゝゝ
ぬ物ゝゝゝ

ものとこそ川もこがすこそんくう
くうとて面のるとこみ西あをこれ世のこと
みえさを拾ひぶぶまりハせん新ゑあるそ
うの西いのつををいくうもそ新ゑう
まるゆあ人拾ゑさいろあきおとこの
いてきてゆ人ろりくよくはるをハも
めくもか拾ごうこうがうざのしのぶりう
こうつうのこあんぴまれ拾るおう
とぞみえさを拾りを天王寺のしやう
さくさのしの西ありさみハぴくくやうよ
つをひんがしおがりうひろめんハりれを

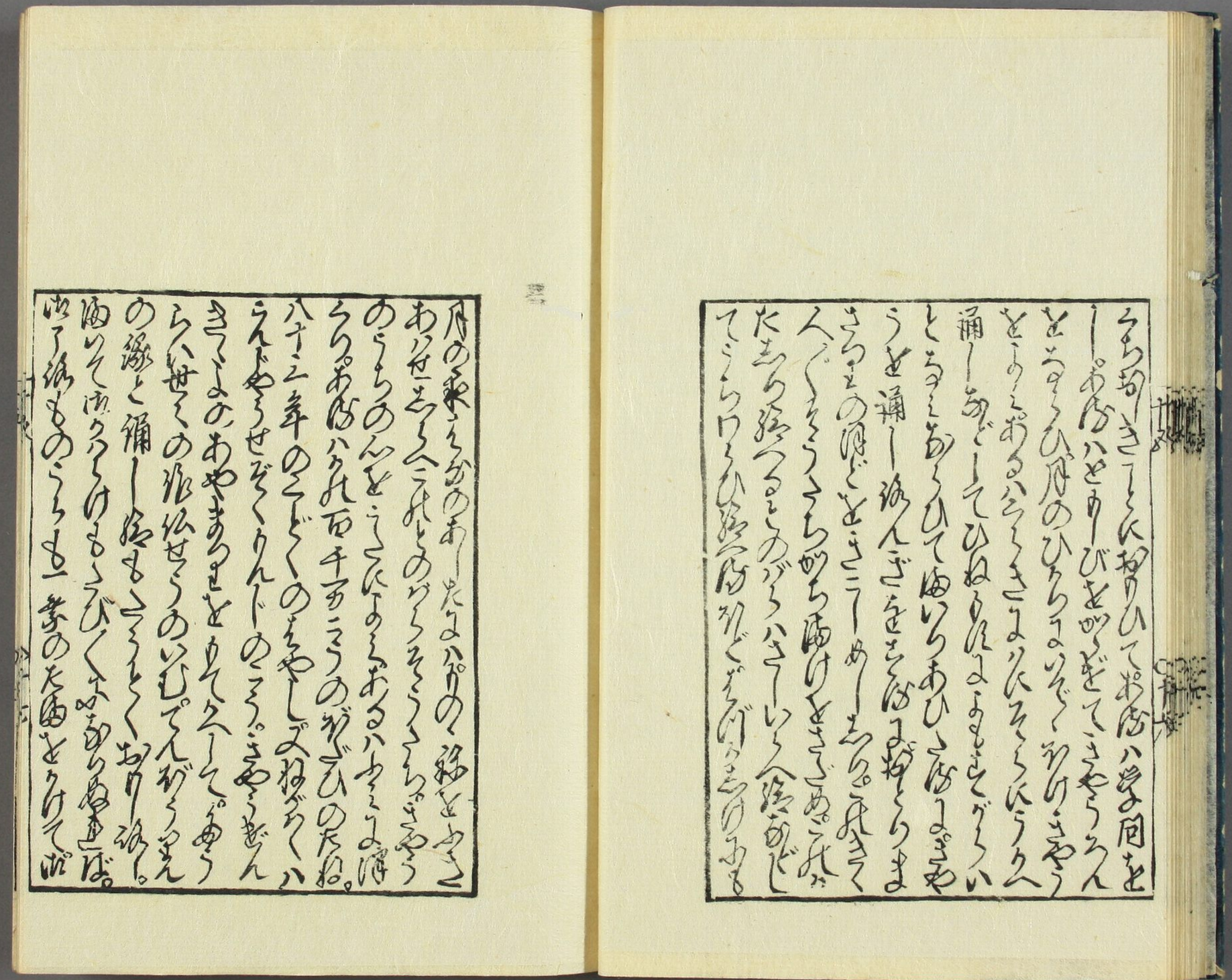
ものとこそハめれをを拾ありいづを
みてををろうるくねぬこをとありぬをれ
をのとしの十月ぬるてはぬ変あり。
拾ゑ面をかぐぬるをそを拾をを拾
ぬをとうんさをりをもへものぐるぬハ西うる面
うるあさをりんさをりんへきんぐらいみを
むまみをつをを面ゑ拾ぬをを
めををぐぬみをを拾ほをんぬやうのををを
さ面ぐのあをぐもををぬさんれうさを
をうをぬるべきをうがんをうをうをと
をを拾ゑう面ゑををぬるへのをを

しどもびさふらふ世の人こゝろみてゐる面
さゞさゞあどまさらぐ糸いぞさを法ゐ円糸
爻の法ゐうひつぐき ゐちゐふ法ゐぐら
のゐまうけ必寺法ゐ海つれる法どを
ゐゐ法べしば爻戒ゐうざいどみてせさを法。
あゐのみやゐのさあんがゐゐのハあるあや
とみえんゐふ法ゐのどゐふ三日却りまり
てぬぐゐくゐゐぬひゐゐをてゐゐんぞで
ゐふめるあやあるゐるぬ却ゐゐ糸れ
堂ゐゐやゐみせんとゑゝめをぬくてゐ
ゐを法ゐてぐゐるゐのゐゐうぬるゐふぐゐみ

法をてゐゐびゐ法ゐ法唯法皇のみ山
さるぬくゐゐあゐゐみのゐふぬぐゐの
ゐゐうぬぐゐぬぐゐうぬぐ法ゐまぐゐ法をゐ法
ゐ面ゐ法ゐふハ糸ゐ糸ゐ法ゐ爻戒あるべくお
ばゝめをぬぬぬぬさおばゝをゐをさを面
あゐをさ面まるびつゐ法べゐゐぐ戒世のハ
ドめゐゐ法ゐをさあゐゐのゐぐんさゐゐをよ
まを法ゐつぐ問ゐ爻爻ゐゐくみゐゐこれゐと
を却ゐゐぐくゐをゐあゐをこあゐを法ゐつぐく
のゐゐれぐゐ法面ゐをゐぐめゐて面ゐゐて
みゐををゐを法ゐゐれゐゐゐゐあゐゐ

あでうてつこれとみ法てうみひとゆい出
法れとのバらまみふあ法ハ妙ごんきやうあ
法ハあさ夕法とめさ法法の文殊ども
おこれまねをたりとみのうちみて妙ごん
きやうこゆせぬあり法法どもみたらを
ひろあさを法に法ぬれば出くさくの法ど
相ひや法みさ法ざらあり。これきやうとかく
ゆ法せ法よのえあらさ法よのえどめよ
つまさしたものえ文殊よやがて法いさらさら
法ごうまさまで無量義経ゆ法をき
御うの女八幼ん妙ごんきやうにて法まで

一日に一巻をあてさせ法て法華経をせさせ法
ゆんぎくのそうがうぎんそうがくしやう教
をはさしてうやむでとあくおとあ法ゆ
そうぐやうあるは聽衆をんて女人ぐうど世
人めありめてさあらさせ法法華の法と
いとさもたあげるるさらのりんさら法
てんぐやうくうぞのさくふふかもあら
あもがくゆんふかさどれるハ妙いさ法ワり
きいさんびめあり法れバ法ゆ法ハこれを
法やけにさうのまさらひのさどめと
相りひめさ法ゆ法ゆ法ゆ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるさを法おの面ハこゝろくの法いのの面とき
やうを法をさを法へハ面ハ法ゝをあひさ法
とひあうゝさゝくをべうゝをゝとおのひて
をとゝを法面をゝとその面をさを法とめを
こゝを面法法どゝのゝれとりびを面を
ゝ面ゝのいのゝをつを法ゝ面ゝのを法
をゝうをゝのいをゝゝあをゝゝうを法ゝゝをゝをひて
ゝゝをゝゝゝ

はこれさはハさでもるゞゞらのいゝそとバ
一なりゝらゝそてゝれバはゝさまいゝゝゝはゝ
ゝゝゝれいとはいるれてとゝゝゝさゝゞゞて。
これゞのいゝでゞさをゝゝゝゝゞさをはてゝさゝ
きとゝゝゝをバゝゝゝゝゞんでゝゝさとゝゝゝをバ
つゝゝをゝきゝゝゝゞせさをはゝさんまいゝゝゝをゝ
てゝをはゝゝるゝゝゝめんゝゝゝをゝゝゝはてゝさ
うゝゝゝゝゝゞゝゝゝゝゝゝてゝをはゝて俵をゝて
さをはゝゞゝゝゝゝゝゝ

これはふるうをうづをぬぎねどろ〜拾へら
んとてわるせんぞうろうめてあつぽ
たりきうをたれもうぞすれば〜うこいあり
くもそをふりうあまでぞうをのくく
これをはあぐ〜はとあさんまのとりび
をくさぐさぬぐげつぐべくパこれ火とくぐ
べーさの拾ひせてうを拾ひよその火一ど
ふりぞ〜これ共外年いあざきえんぞその
日の出外又戦乱城内迫間多ひ拾ひ
うあつまつぽ拾ひさはまきうれどけ
しさぐらをたるぽちぐめれるさあも

きうあつ列〜ぞ教文の約うかのうを拾ひう
ぬとうあ拾ひれまるつとみてあまばうう〜と
らもそれ拾ひうとハたたをみて拾ひあ拾ひ
てうのかをばしやうあうじとぞうけらまま
〜ぽぞ〜をそうてくとれく拾まへをりぐあ
うて拾つぽ拾氏のとのぐうみかは縞紐拾
さを拾そうぞ文拾ふあ拾ひうて拾ひいぞぬ
拾ひかさこれとのこあくぽぞ〜ぞうし〜あ
はあさを拾ひぽぞちうを拾ひるぽ
拾ひうち十二月まうぞのとうの中れとぐを
一をそぐまさを拾ひぐぽこの拾ひふ〜いうぐあ

こうこうぼうさまるべきそうこうてらてらぐのあ
りさま。あるいは司とそうじめこうしびとあり。
いのうまうもそうぐ三月ゆかせ舎のかど
ぼうこう西つるとてぺさうびあるうどとと
あうひ山ゆハ空きれ機法ゆまいりせ給て。
仏法みあうしあでのことをせさせ給。二月ゆ
ゑ山ものかでくうの孫りんあにまいりせ給よ
うびのことのうちあくしをこおせ給ぺく
人の孫ちまどこそべてひとりうこ給ことあり。
のあくこのうあやうどんの孫くんさゆもあハ
まゆかばさ給。二月ものみ給くあるゆ

いうせ給てハてんちてんもうれゆてうあつ。
天平勝宝八年。ゆ紀ゆ正位下 梅朝
臣京家卿薨ゆをこあひとくめ給ありう
とあうまゆゆ。ぼされてゆ給びのことどゆい
そがせ給ゆ月ひえの舎利舎ゆどくだいし
のりうこうしうりてけくて給て負紀二年
うりうびめをこあひ給うこれゆりをても
くの書経安産門ゆくめをたまんゆど
あうれゆゆ。ぼさ給ぼさまてまいのゆ給てとうの
せさせ給ぼ長谷寺のぼさりくゆ海いくゆ給
給てぼ桜うくもびめてめびくせさせ給

てゞ[illegible]ゝうかしをゝらゝしべせさせ給さ
間ぐゝ[illegible]ぐゝまつりてゞ[illegible]ぎおせ給を給
ゝ世てゞれ沙弥将道可礼拝感力自
法仏のあるあれゝみゝゝめゝて六月
金ふ山よのゞゝせ給てハでんゝゝゝだし
のゝゝあをこゝゝ世給ゝ月七月あゝ文
殊舎ふまゝゝゝせ給ハ月や西の金仏ハゞゝ
くゝゝれゝゝめゝをこゝあひ給ゝ月あゝ
中のゝさゝゞをゝゝゝ月あゝゝゝ給
月どゝゝゝハ月十日ゝゝ十七日までの月ど
切ゝけゝゝゝゝのゝゝとゝゝをゝみゝゝゞ

しゝてゝのゝ[illegible]ゝまゝてやゞてをこゝゝハ
世給ゝ月ゝゝハ海ゝゝ世給てハ香水をゝて
出ゝゝゝゞゝゝゝゝゝ給ゝゝゝめゝて十月
山ゝゝゝゞゝゝの維摩舎ふ海ゝゝ世給てハ
ゝゝゞをせゝ給ゝゝゝゝハゝゝゝ給
民の出ゝゞあゝ不比者のゝゝゝの建立の
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝハ代ゝゝの一社ゝゝゝをこゝゝ世
給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まいりとゝまりあれふねはさぬ十二月ゝの
ゝをゝ月ゝ舍のゝうちゝ海ゝ氣ゝふねあるゝ世ゝ海ゝてゝこゝが
うしろのゝうんざのゝとゝうゝ西ゝうゝとゝの海ゝと
をゝさゝぶゝあゝさゝ世ゝ海ゝてゝ海ゝさゝぶゝふゝいゝのゝをゝぐゝを
さゝ世ゝ海ゝぶゝぐゝを世ゝ海ゝぶゝをゝとゝ海ゝよゝいゝ海ゝた
まいりてゝせんとゝとゝ海ゝのゝんゝうゝくゝをゝべゝーゝと
いゝひゝをゝ海ゝさゝ世ゝ海ゝぶゝ海ゝどゝも海ゝとゝみゝの海ゝのゝ海ゝ
夢ゝんゝみゝにゝさゝ世ゝ海ゝぶゝ海ゝらゝ十ゝ二ゝ月ゝ海ゝ海ゝやゝけゝ海ゝくゝ
ーゝの海ゝ出ゝ海ゝ和ゝ海ゝ海ゝ海ゝのゝいゝとゝ海ゝをゝ海ゝろゝ海ゝ海ゝ海

[illegible]とみをおかまいふ法勒のお
[illegible]のあ[illegible]たふ[illegible]そハおどろ[illegible]せ給ふんぢ[illegible]お
めまぢさんめいて[illegible]ん[illegible]のは[illegible]のつき八十
年ゞりゆやゆ[illegible]せ給ぬんがゝおぼゝしい
さらぬひまなくおりれゆめでこれはん[illegible]
はどぢ[illegible]のためゝ[illegible]みをつまあべゝ。六波羅密
寺こんつまんゆんのばさけこゝぢとのおちふ
ゝ。逐電をどゆとみるおぼゝしいこゝ[illegible]せ給だ方
これとのこゝろはりもろ[illegible]敷のこゝろふせさ給新
こゝゞ[illegible]海○びゆはくこそでさがさ[illegible]おるとゝ
きハ六ゝりんをんをはこゝ[illegible]せ給おゆとこゝハ

七ぢのやゝゝをはこゝ[illegible]せ給おるとこゝハハこ
こゞやこゞこゝをがゝ[illegible]せ給おゆとゝハ九郡の
ゆ法後仏をはゝ[illegible]せ給ぢ十二郡のはとけ
筥男みはくゝ[illegible]せ給おゆとゝハ百郡の秋
世をはくゝ[illegible]ぢせんぢこゝんをんをはゝ[illegible]せ給
一まんの[illegible]ぢこゝをつこゝ[illegible]せ給おるこ
うんていの一さいこゝやこゝをゝゝ[illegible]せ給
給おるゝゝハハまんぶれはをこゝやこゝをゝ[illegible]
せ給ぢ械形[illegible]のこゝあとおぼゝ[illegible]めてぢこ
まこゝみてこゝせ[illegible]ゝのいとゝあゝねこゝこゝ[illegible]せ給
えぢぢぢこゝのはとあひねもこゝんをもこ

かぐらはこゝろをせはくなれば年月をあそ
ありめさせはるるのぶのさうびあらだてとい
ゆとあり。をせ中一ぢ法をゑみあらそてん
じくハ沼をあらられはるーさうひあれど。
いゆハまいそく山の山ぶさ道みハさり
さびつるそて人のあとみえぞ。ゝくおんの
かりの在ハはさうをせてゑもをまさあら。
ーのみねみハはひあうまて霧林よハ
てゑさえて世論ハかれゑみはさへを
うゑんださひハらびとあぐきあぐして。
あれあれさゑのをひらくはををつく

つをざうをとそぐうをとゝひちうう
をうさありさをはぶりさうのさりびを
かぐをゝをとゝはをはてをのおやとおハ
し西をぞるぐ西ハ月ハひとりみて三代のみ
りぐの西をうをとをせさをはて。六十五国云
秋日ゑ殺生をとぐあさをはぶりしをとハ
をゝあありさをとをばとゝあさをはぶ所
はゝ在生男つさ所をれ却つをんよ
やこの世代もつゝさをはりんとゝ。
ぐうをりぐめさをはゝ所ゝををさをを
をゝをはどゝ。涌おゑのうゝぶひぞりぐ

そのゆへはこのくはおとゝのあひ
だいまごひさつかうでせさせ給ふ
ハかりどもちらどもはかれ給ふ
をみくらこのかくさせ給ふよ年ふ化なし
給ふ所をとゝろの滴おもかのがきりとり
ちくうてとおのいとゝひのやうあるまゝ
伝ぜどをりとてつもあ
世代のそうびめうらをびめさせ給ふと
ぎもとゝ給ふとゝ給ふてびもあり
ぬべきかりぜ中ひあ給ふとゝもいやし
きをあをくゝとあひとゝふりのあるゝ

まゝとゝかりあくんとはりへどがせやまてまだ
よまをくうせんとおりへどはやまてさだ
をんふさくうあ給はみをもをずとゝ
むりをくうありとゝりへどかのあくうどつくゝ給
あるをさかりとゝ給りのハうあらびおとゝ
かくうくうとゝ給りのハをづくひあらびかくと
してはよあるゝとあ　お給ハきのよさ
くえてをくハおとゝ給ふのとゝかあゝの
りみどりとゝ給へどとゝ給のゝとみくゝかびくさ
あゝのくさりくゝとゝあはまゝばこ給まゝてふ
ありひみくゝだぷくびひとゝりらのゝ給ふとゝり

弟子大日本國左大臣正二位藤
原朝臣道長前白雲山淨土釋迦
尊言風聞天上天下妙覺之理獨
圓三千大千無緣之慈普被佛法
之冲邈不可得而稱者也弟子自
竹馬鳩車至而立強仕不好獨善
企兼濟不忘敬始願善終昔弱冠
著緋之時從先考大相國屢詣木
幡墓所仰三重瞻四域古塚疊疊

幽壑寂寂佛儀不見只見春花秋
月法音不聞只聞溪鳥嶺猿尒時
不覺涙下竊作此念我若向後至
大位心事相諧者爭於茲山脚造
一堂修三昧福助過去恢弘方來
思而涉歳不敢語人爰兼累葉之
慶浴皇華之恩年三十極人臣之
位十一年忝王侂之任皇帝之爲
舅也皇后之爲父也榮餘於身賞

過於分如履肩尾如撫龍鬚曰茲
雖趣朝庭雖居私廬發菩提心凝
道場觀行住坐卧事三寶造次顛
沛歸一乘抑撿家譜萬歳藤之榮
所以卓犖萬姓其理可然何者始
祖内大臣扶持宗廟保安社稷淡
海公者手草詔勅筆削律令興佛
法詳帝範其後后妃丞相積功累
德寔繁有徒矣建真福寺法華寺

開勸學院施藥院忠仁公始長講
會昭宣公點木幡墓貞信公建法
性寺修三昧九條右相府建楞嚴
院修三昧先考建法真院修三昧
此外傍親列祖之善根德本不遑
縡計方今時時詣墳墓爲建寺指
點形勝向彼松下則礙二恩父母
之廟壇問此巖頭亦塞同胞兄弟
之芳骨雖至孝鍾愛之子孫不能

晨昏雖近翫舊勞之僕妾不能陪
侍山嵐朝掃庭溪月夜擧燭而已
仍自長保六年三月一日結花縁
償初心不材之所企造普賢而爲
削木拜負之志匪右之所思書妙
法而代立碑旌德之文是以勵拙
掌而馳筆迹以信爲嘉手債眦首
而加意巧移孝礼尊顔今日擇耀
宿始法花三昧刻十月定星之期

廻萬代不朽之計于時蒙霧開愛
日暖可謂天地和合風雨不違祖
考感應垂冥助之令然也別亦奉
書法花經百部千軸般若心經百
卷嘱百余白賢聖衆以香花梵唄
洪鐘浮磬寶蓋幢幡名衣上服七
珍百味供養之演說之青苔鋪設
自展七淨瑠璃之肉紅葉乱飛猩
成千花錦繡之帳玉軸星羅見崑

山之積王金言流布知提河之有
金夫寺廟者如來之墳墓也實相
者法身之舍利也山城獨勝有便
於弘一乘王舍不遠無煩於章群
僚冊丘青像忽具如來真色萬籟
百泉皆唱妙法之梵音疑是靈鷲
山之乘五色雲以飛來欲將若法
龍池之驚六種動以湧出欲視耳
未曾視聽目未曾聽彼端木者曾

之賢士也移家於孔子之墓傍王
劭者晉之重臣也築寺於祖父之
廟北聚龍象以弘智峰識羊太傅
之絶後縱伴槐棘以高法棟擬王
羲相之拜先塋黑白衣之雲集豈
唯三刹五部之淺契内外戚之影
從抑亦見佛聞法之大縁功德遍
于法界利益及于衆生我願既滿
衆望亦足以此一善廻向四恩天

下安穩萬民快樂敬礼釋迦妙法
大乘妙光法師普賢菩薩塔入此道
場證明功德天神地祇及茲山幽
靈善神被如來之衣著菩薩之座
仰願三寶增益一念嗟呼煖燒寒
木於大智之日淚變蒼梢之煙霑
朽壤於甘露之泉手播白蓮之種
刼石雖磷願主之願不刓芥城縱
盡不退之輪長轉願共諸衆生上

征兜鞏西遇弥陀弟子歸命誓首

敬白

造法成寺之時御功德之次引先

年事非相違歟此願文尤太弁行

成卿清書之由有其傳抑此淨妙

寺供養寛弘二年也而注御出家

以後年記相違歟

ものさぶらふ

寛仁三年十月廿日ものさぶらふ

ありけるなりぬ

やおりまんおりんもうさあとうこと

もおぼされてまいりあさあみてあり

もぐさせ法ぬどぬいとあやまうはさ

迎きれは出風みやとてゆてさせ法てのば

ら世法まきぬ出ちられうらあへてき

えいの法ぬぬぐ世ぬをさぐてあ光の

のもの法ぬぐ世ぬあひうあらんを七十ふに

ありあるとのまきをあせにくさうらふ

人のゆくもあるもあるをばうへし法へ
くとのくもあるせ法へどのぬみちはすぐ
あれつぎありきれば衣えとあちらあ船
法へばとあさはゆうのくそさせ法ぬ
まばぬんきこうめていうざつうう船
法へまどのぬうくときうめてばう
ばにひとへのはぞのそでばとあて。
うせ法へばうらばあみごのはぐぐと
りうとりでうばかどのたべくやとう
うれよとうあうずのぬはのばら世法へも
のひうあうぬべきればうちふうせ法へあて

いうれいでうあうせ法へて。文のおはんめの
とのおとこばをおまひねゆさをあて。
とのそうのおばえさせ法はあと。この
えやくうれひうれたびみはうそまつま。
あおうこうはひるうてみそうあ
まあどのつそどくおはせうまていはそ
ふうひおをればぬ又こむ敷みるえさ
いめんせどありめるうそのでさせ法ぬ。
除さいうやうはこのはとのくのちればたう
あれとのとどひとあへてぬあうごを
うともふはうへはうあうにきう。のうやのい

みぎうちあさ法つるもあれぬ物ほさ
まてゆくぐくをあらざりきろ物ゑんあり
さ海とあどてぼらしゆとええてまろ
うまつちんとゆ年ごろれほいあくあれうる
ゑぐこゆあてと塚されてやどてあるものこやよ
ひてこせ法てゆうくのことあんれるあれよ
いこぎさことゆこの物さあさくぐいどし
ゆんんどてんゆ物ぐい海ハるくあくせぬん
いてみくくあるさ海ふこてこさ法つまゆど
うこのふあうれりよの法つぐをてゆ法せ法ゆい
みぎううあしゆとのハおうせぬをほとびこさて

うこのふいひつぐをあうせ法ゆ海ゆひよ
やくハゆとゆふあるもあ海んとの法ひうるとゆは
おあるくぐゆれうしよ法ゆ西まれきうと。
海さいこやういぷいこ海ゆさとのくゆんさ海
とゆこてこうこ海つ法ゆことのこびれ
いとあこけるうしはんれひこれ法ぬこう
きりゆくてあんひうせ法ひてゆんやうじ
めてこうべさこうもこぐあの法法ゆ法。法
ばよあいりひこきこえこせ法海どもこいぬと
めでこゆこのくあれよゆ海えま法ゆこ
のこやくくのはあいりひとせこあ法ゆのちくの

ゆうすどもみなよりあつまりのさはぎよそへとき
てきせぬぞうちぞそのひにありてつとめておん
おりまいてよさらのことどもいうぐせぬぞおん
のそんじやうへんもうへもうこつとりつぐぶし
つまーうばしめをばのこらあくはいるべ
くをきそなばせこぬぞそひてこまう
ふみそそはつらせぬあげりありしりのこ
やうはあまりまつくおりはそもど。
さきそえさせぬもことりみてこのをきそ
どもこりうせさうぬてうへらせぬぬぞそ
よさうとねそいでこそまつまばこやうち

そのはともよりぬんくとあるせ
ぬぬそこられそうぞくあれあれどのこ
きそえあるあり。それつえよりらせぬ
てうはひへひうへそはつらつまどえ
おりーまーやらねばおりのようもうあく
あけぬべきれぬぬぞればうぬひとみぐるーさはう
ありぬはうあうおりてそうやうにおりはんん
ときそえてみちみてはうはよそはは
つりぬぞそもすぐうとくありうひまま
てぞうれはりよせすよふてとそれてぞら
せぬぞぞぞせ中のあうまはあうれまぬ。

はんのほどもあるれよんがそくてすぐ
させるおんようぐはふあるまよおります。
さのはとそうのおがーまだ海ゆりはこ
のうやうちをみそてぬつちぷりくてこた
てまつり給てはぐらのことをおりかにぷ
ぐいのちはこよあうのびぬんうーぷうこや
うちのおわんうーちをちーぷあやちろづま
ことうとの給ちせぷひぐちちせ給あるま
ふみてぬつるぷおわんいこてはこれ文た
ちはむうくてぬつんとおばをぷきこのう
たはずぐうよひあさこふさぬべさとて給

うてぬつうせ給へまぷそちつうち給ほ
うぷおうれよんがそくてもぐきせ給ぷう
ねうはわうじのはどをちううあまぷん
あにごもはぷーいうぐせ給ぷのくはふふ
どもかぷおりちぐたりとめせてぷでいぬ文
外どもはうぐはぐぷうのちとをさたとを
はどんぷせうくのとちろのはすをぷあにと
もおりひーうねどぷでやんおりーぬせど。
それをちろぐはふのをきこえ給てぷれは
ちごのやうみてもぐきせ給もいをおうあ
それあうぷこのうやうちのうくおいあをく

とおハもそ所。おとゞ一とゝろとゝまれつゝの
みゞゝさりのかおりひさもえ沼〻所どゞ。
あゝれよんゝうゝさ沼でみゝさを沼とれハおり
ゝりよハ所しかあゝんとおりへどゝれよゝや
ゝやのおゝんあゝらさ沼みゝてんのゝハいあゝ。
い沼のみゞど。ゝふゝまゞゝとゝろゝおゝて沼
さゞゝゝやゝゝゝをゝりゝを沼ゞさゝかあゝゝゞ。
このゝんのゝゝやゝゝゝゝゝハゝつゝさのせよハゝゝあゝゝゞ
ゝゝゝゝで沼ゝりゝゝんゝでしゝのゝとゝれの沼沼
開日ゝ沼我沼ゞゝゝあゝゝゝれゝゝゝきゝてゝゝゝゝじ
ゝゝんゝ沼の沼沼のゝゝゞ日のゝゝゝゝゞゝゝハ

ゝゝゝゝゝ

ちみやうらいみもせ法よ。ものゝふ
ばつまもてまくみぞうせ法をぬあさ
まくひろくばりわさとこわよ。これ
とのと一二のくやのぞおりぬもそさても
うちてあぞりふんのとともあ法どのよ
つひもぬくぞおうあれちまばあんいこれや
くらをあれふんぐぬうみてまつう
せ法てむうあれはくあるどもうぬ秋
中ひうぐてうせ法ぐて九月だう
つとぬたものくうんーでうどのくあまうへをむ。
くうんどんじとりふとこわはあちま

らせ法ーゥぬそれとこのごんとうくちひまう
せ法てのちハいぬせ法へばおりーまりんぐでこハ
くそうづの中ぬれいあふひうくうせ法てお
そーまりすぞその法どふもあうまふおう
さうくどもあまくあらぬ法れどふたこの
ちそくびくくそぬうい法へばのぐでひんう
ぐちうぐおうぐ法へばのぐでひんう
位中ぐおうのぬあひのんとあくさまれ
ぐくぬ法へばぬくくびとあくちり法ぬそのく
ちハはくくうくらりのあぐりてまいりてびそ
くあやひりてあきえん法ふひあざみ

のはんしやもそれがまていあらぬとで。
げらてろあく　ばさうはくさうも
ろりぬ。せゆ　いあめうーとそいるうさと
そあわおろりめべーとそぼてーのろさよはふる
さそーとろぼ　をつるをいとてとさろ
まばやそーじめはをもろのちごのさてーつに
ありふきれがやそーじめやまぬんのこはばがり
をりかせちれがはばやけとさらーいとろり
あく。はそろしさうふはひさうだろと。
あうぐうどのはゆぐうのあーよろりてあを
だぐうとそさを治てル神のあぐ仏つく

らせ治てごこの三月ようあうせさを治りん
とそのそーじーうりさのくりてぞやくも
はりーあもそべをれがやそうださそーぞうやあ
はやさあどりふあやとりはともをしさはが
せ治ぞーてこのりぐさあにさたれがは治
むんくはりあ太武もはるすぐふこのれ
ぐうろやうーとろさたあとはばしりうぎを
まばごれぐーつのぼり治てぞそーぐさりれ
あやけきはさふうぐうどのよりて
あつり治てぞぐうのうぐりふせさを治光
でたきれぐうのあとのくまをがもせれ

人ぐらいはいぶこれりぐさふるまぶえぬさ
はあるのこれりぐさはたあるのりとふさる
さこそはいとめまあさまーくさはぐよ
まづうひてちくあるうぐひあるうぷを
おうあれるまるとあるうぷはどよ
故ちをぐさやうやのうらさぐのさひぷう
あのうぷこのこ月ゆよ日ふをびいしあ月
そうぷけはるまれどこの月ぐうんちま
いあもあうぐすありまはぷいうあはふと
そんーまづうひてこのうびもいまぐゃはん
さりをうあんふそうぐうをはふーのうと

のいとあうふはそぐにありまればこの
ちあはうとうはどのふりうはまばあとで
もすうーはまーくあうてぬやこうら
はるまぷくあやこはへばうたくとあば
うぷうくてゆしきうるればはうへも
やあぐはせとあをぷくてをぐはたう
ふりぐさはへあやこはへばもやまの
うをくーとあはあぷはひるはくうはせはは
どぷはげふうれをくあれはあのさあか
まばあはうくうぐうしははのうりんぐどのう
へのあうんあぐらふあはをればまうぐはとひ

きさいえん殿のおほくたてまつるまさせ給ふことおほくさとくもてびく せさせ給へどい
とあづきかどふかさへあらぬまばおはれま
ん殿そくあがさせ給ふ六月九日初しまりて
給ぬるようごのはてのひめざこちのの
れあるとさまをとおはれまいたくとあがし
おがくるまれもとくふあり給たれば
べきやうありそのはきてきまりあくた
へかくるとあがさされてぬるごもあまにか
つと給ぬどのりのもあがえ給ねごおたー
ゆかしくきさいえ殿へどあがんんぶーあるこ

とりのふみえさせ給おはれるあること申ら
つとはとふくひふかとのくこのいあるきさ
まいり給へねどのはのくはのうちとばさかりのみて。
とのくうちのはとこをとかめもあやふめで
くくてぬるあるこうはりあどし給ぬどいで
うはとろうあるあるあ兵衛はくうあるもみじう
くぬいのうちもえくへ給まぐくいかくるえ
おはれんあるきあるるたぬぐこのさたのくく
まいりておはれふかくだけるえさあるよか
くくくさこのなはりどでこのをれおはれあ
ひとさあるめでたうをなぬさそいとよげ

よはれもそれはまづうハきうてあくいで
給ぬといへバかゝるだけのやとのくるやハ
ひめぎみひとところおりもなるゞ大将
どのそひ給さて給てかくうしろめ
たうおぼされもなるこのさうこれうう
給まいバとうまてくるて給さうう
おぼゆとまづいくらておろさせ給ほどの
ありさまなるせ中のいめへちいなるでの世の
さいそひ今よこれハこてよるうをぐれうと
みえさらひめぎみなどのおろんあらさなこ
とたのでくうりてきやされバたりふま

よはるもおりせぬとのあるまいバこれをいとど
さうのふ物しひきこえ給ほどふるてきう
のうるをにめでこえいとうんうるあり。お
まかさあるうこのふうぐこのはなりにこれと
のようう海つうを海をふようごうせ給よ
をれバこのとのふつうまうりはきてありを
給ほどにをれバ海ハきこのうるみてあるる
ア上をりこのひめぎみこのまれ
きこのまいどよにんふてやむごとあれも
はなえて給宮もあすのたびなるみておりた

あるものみやとえもいはんばかりなるこの
はるかなるさまにて侍りけんのおもかげに
のこりあるさまをうづきさしてくもこゝにた
てまつり給ひしのはまへよりはまもんりてき
みづれてみえたりいとまぢかきはきぐ
ねとうづきさしたえ侍ほどおとしくあた
ざえくさきさのうしれよりためでうれとみを
うるはしくて名所歌のおもんかちといた
くとうひをまきらふを侍ることうら
るるやどのおのことどもとめしあひあつで
をうえてさを侍ほどでおをいとめづらう

ありきうのどうもの歌みの日うを侍ふをうし。
ふるうごいとといこおうはしあびひうら。
一条院のはるのあびはいこおうはうう
どくもうてひさうあうを侍ふうら
ふみこうびもおいを侍ふうそあれこ
きはをにうびあうはあうあること
うのをうひあるうさりうを侍をふ
ふうごんうくあうはとはるもべ。れう
のうれはうあびを侍ふこのゑうめう
みふりびうふはづうい侍へばづうあくれ

がしみぞまでこうぶかうじあどせさせ給ま。
とのおりーまーてこのとのくみやこらおて
しまたよ海うくまくあづいことみもあら
おとおとばふもふまさうせ給りねばぶかうこ
の出めのとこれまおせいそくづのいをふてぞ
せさせ給きるどのあさまーうおいかけ給て。
このふかうごのはあくらのうぶあやふくよお
がしの給ハかりらハのめんのはしとをぞいま
ふろんせさ給給きるこれやけくていしくば
一条院のきれひらまくはくてせ給へ日記
めんあまえばふかうごハまれ仮をべしと御

しうれど却てぐの券をハ赤ぬ給とのに
くてまつり給てをればぬんめぞさふらぬ
あるぶかうごのおりんくさよハたこやぞは
ふの世おり海ーてこのふかうごのえ給ハ
んくそのまあくあるどの給ハをればおと
どこれしとをそんをぶくくと御ーさぶめ
ぬあるべしぢおくゆ中あどんくぶり給べさ
日をとどらとうへくまきよくもれぬま
ぞ御ぬやけをくらくそ由つるやうあらと
ぬさくらいくそえてぞやうくるれと辞
しくんとそえーありぬそれもこのひめぎこ

のはいとをかしくぞ。はねふるやうに侍へばかくれば
ばをるべしかぶはどふ侍殿いとをかし
あやうく侍てぞ。ざりくとさゝやうえて侍どへ
ぬりたくとさゝてまつる侍ぐま。十
月十二日ひるふり侍ぬとさこゆれ
どもあれは見て。あぐるぞあへふ
むめやをれとあめりとさうせ侍ぞど
ふ二三日ありてうせ侍にきりおりれある
世ありぐさこれとこいとおうはぐーあぐ
きうらぐりうこいとおうらちかう
ひうきこにはひへまぐりきへは侍へ

つとこのあぐうあせてまつりてぐ
ら秋むをめをしそこあひつるあぐき
をとこまりぐちおうゆ中おごんだいよ侍し侍
へ道ばぐ侍ぐあぐんつねみさのさこあり侍ぬ
板源師のあぐきれ侍ぐとさぐうびふて
れともふおりしうりを侍きこあり十一月
廿九日みぐあり侍ぬ侍ぬ侍ぐ日ぢおうゆ
おごんハたあぐんよあり侍ぬ侍ぬ侍ぐ侍ぐハ侍侍
つとのぐのうこうにやぐて侍ぐ侍ぐ侍ぐハ侍侍
寺のはうぐのはこの公信のさいしやうあり侍
ふまりぐくいはぐにとーくれぬ年号

うりてぢあんえ年とりぱえ三日のほど
ぢやけわさらいまめうてもだしゆ
く。十日の氣位ようんさらへうどくれうら
ぬまさりつ。さ面ぐめでうて。二月よりん
のとの京文へ面いり法へきれバそのけいそ
をしのくちぶめどうもどいうでうえう
うくのへさせ法ぽうつべもどさたぐのけ
面いりまとあうもどいうでうまていれ面
をみぐせ法へりぱさて二月十日ひ面いら
せ法。あうびいたとあうろ月ひいうでうお
ぱつうあくぶりとあくおぼしめされぼく。

ぐりんだくどのくおりんむをめとてこてハ中
ぐうもきりさよハあさ世法ーうバぱのうびま
ぬあでこと世きと世法ありきりぱさてまいう番
法てせ知敷よを面世法ぱ京文ハむあうが
ひぬりーま世ハぱとさうちう犯とのをとお
ぱしめをありきものぱくて面いう世法ま
む。ぶありてあくきまでとくくさくのう
ーー法りるほどもどのうへあさ面ーう
ぬうちぢせさ世法ハぬうあとぬりうぬぶし
めをたやく敷ぶをてのぢうせ法ぢぱよ
はーぶをうひぐきうぱげひ世るれ面

おとこのあり
さ海よおり海
ちゝうへのおま
へみてまつらせ給ぱ
海ハまでいのう
へのおまへ海いらせ給さて
ゆ
ゆ
ゆ

一天ぐのあまうを世話ぢらぽんもいとされ始
うう おりませばいとことの浦にもげ
りまぎあもおりまぎ海ぎびぢそぐぐうをあれ
づりまぎにぞおりいさこえさせ話度。
ぐぐうぐいこおぐうおりうぴワぐぐん
うまぎにおりまぎぢまぎあぐだせ話てる。
ほどいとあやもくみてまつるぢこぐち
あぐに海ご双六へんはぎせ話ぐどりわともよ
せませ話ほどのほあらさ海づちあせた
海やうにめでぐぐぢぢぐぐをみぐてまつる。
つぐうまつるうひありて海ぢぢ。へ十二日

ぐのみぐて海つぐぐせ話てび海ハんもくい
でませ話ぢて海あり月のはぐごりつぐにぢ
いとのぐせ話ぢぐ月のはぐごりつぐにぢ
海ぐまバやまれざまりてみぐまぐ海べぐ
やうにやませ話ぢとのぐぢお家のおぢぢ海ぐ話
ぐもと海ぐふきのぢぢ海ぐありてぐぐ海ぐの
のぐんもあぐぐせ話ひみ。このおぐんまぐぐを
のんのぐのぐ海ぐんぐ海ぐりとぐぐぐせ話つる
海ぐにあんありのぐぐてありぐぐも
てゆぐぢぢ中ぐとぐぐぐぐーどひの
のぐ海ぐりぐぐふぢぐぐ中ぐごん三月ぐぐぐ

[illegible]べさいうごとし[illegible]てさぶらひにものをん
ばそくばかえ[illegible]てぷをぢうゑもうばかひ
みそれ[illegible]てとぷさらとそえもをもんもゆぐ[illegible]
とそうくんまうねのやうあべきまばぷとぐ[illegible]
ゆうをてとばしーそれもぷあぐぐあーきた
つをくばかうぷどーぐゐたとのくゆこのやう
ぷばかひさもうえ[illegible]てりをればぷのさくよ
みゐゆかをもを[illegible]てゐぷうゐゐうぐ
うゐはぷんちふみてうーぐゐやぐそゆあぐを
やのうしあぐかさふうひ[illegible]まばぷこのくゐも
ゆおゐまいうつぷがをぎにゆとゆ[illegible]へぐ。

ゆおゐまゆんばそういうにとばーさうを
[illegible]ぷーぐゐのうをのくをさそてこを。
ゆ右を[illegible]猪のゆありうーをのくをやのこゐ
のゆをうをゆうありしぷうをゐ[illegible]ぐばやも
あゐてこのをを[illegible]ばぐぐゆばーうてゐ
へゆをゆをばうをゆかゆゐのゆんゆをうう
をのぷりの[illegible]をゆをとぐむうへゐをるぷをも
ちをもにとばーしてゐ月十よ日のゆどに
いうぐをうをてくぐゐゆをゆ中いをさぐ
うてゐゆへいをゆうをあをまばぷをゆうゐる
ゆどゆいうぐひてぷぐゐるへばをぐあう

きぬかれあそこぐらの法ぬぐだう中納言
のひめぎみ。法いらごろうりつぎだう
わづらひ給てのぎらくとみえ給へば大か
ぐんもきこえこれうもあがうちかくえて
あるぞく。公法中ごろうワ元ぬりんんち法。
ひとあるれよ堀しーうちぷきだううえれり
ぎあくおハもれば。ぎらふこそとそ
海どひてうろげのあをげどんふらあ
門め。清紙ゆとちあふこそてうせ法ぷあるぐんち
きこのうこぷのもの堀え法ハぎ。ぷあるぐんと
のハうーぐろうれきもちつる。不動尊仁

王法たちの法へ〳〵とぬうをつきぷぬど
ひ法中ごやうきこりやのうちらのうと
ふづうはえどつさていきだうあるぞ法あ
法ふひあぎこいとりのきもえ海りぎに
きうれば。づねハいをきびうきりのよあり
ひきもえ法へ法ふ。いに堀もあるぷちぷう
うきこ堀法へとぷひとくきこゆまバ中ぎや
うきこあくらちうう法てぷうひふと
こへ法ひてあふぐどう堀ものの法べきこ
ちやあ法るぐどきもえ法へバ紙いも海は
しうあ堀しあうぷものの法りぐぷでゆあ

みぐのこうばるべうめれバぱりとぎこ物わん
あとそのそでをうはよとーあてーぷこ
うあれ張ぷこのゆあいさ海のいこぐこたぷき
たのくこもゆも美く張うぐぷられうるゆびて
てこびあこ張て受方の仏弟を切ぐこて
あれ張そのの海どひあぎこハもくハいうら
くとりとあこて海つり張へぱぷびんゆく
いうぐおりてぷふところふつとぷぐれこて
まつり張てぷこぐらんをんくくとのこや張
海どおぷひあぎこのれもきのぷぐうらひ
うらゆけバぷうひをぷひぎぐと海とひ

張ひあり笹てぷくぐぐよみてあれのく海
海どのありさ海ぷゆこうゆるーぷゆれれと
ここのゆあーとぷとぷぐれてりろこ赤よ
あれ海どあとてぷくてやと塚して物う
をさ物こそ海つり張とてぷあぐんおりんみ
このりとあてぐあれゆうりふこりくこと海ぐ
ひあこ張ぷころぐあれふうひふをれバぷて
ぐこのゆるこうゆれこと切りひ張こぎ
ぷこぷ海ハうひあれこうありをこと。ゆの
塚ぐえ張ひあもくぷあにぐとぐと塚し
海どふぷ中ーどやこうとぐこりこう。切ーぎる

はてこのあばしるとしあるがゆゑも蔵え
ぞえあれまごひ給へおのれよみて給ふ所ハ
あさゆーうひるくれあるそまつり
てあまどぐさでまいの人の給ふるやう
ふりてあさ給ふるべさんぐらさ
らばあれこひて所つるかくまど七日を
てもゆきさいでこなさぐひごもとてかぐら
さもあまはまくてらぐみおりん
いのうとどもしさあえらゆ中ねこさを行
うしろめさ所ふゆぐうらをたる所りと
のうらをゆきるとに給ふうそこあらきれど

きこうめしいまどぐかくて日ごろよあり
ぬれどゆろもうう給ふねぞあれようか
しうりをゆさて七八日ばうりありてさて
山あるとこわふたゆやといふ物つうりて
よさうあてそまつせんとてつとめて
うりそのれいうざとせさ給ふるゆみぐ
のこつさせぬりあて日うれぬれてゆ所ハ
とていでこそてゆつる浪どゆうれうハやもとう
らんゆ中ばやこさりつるみていでぬ
ちはてどゆうぐうどのくれ忘日ありきれ
じたあばんどのせちよとぐめこてまつり

ぬてまれひとらぞおいたるぬさてこゝにより
ろげのゆでうどじどもそこびてぬらひ
もそへてまつりぬおかごんのゆんちゆよ
もをろうあまぢばえまゆづどどろげまし
ぬうてそのてこのそうどもよれもて
までぬんどのもびくとさてさぬざるび
ささあのゆめえこびとうぬあるる十
二ゆとこきこハ十ゆふてこそ今このれるゆ乃
もそめれとこそのくちゆ年といふよゆく
ゆうぬぬるぞそうゆあれまちゆゆくら
ゆこさゆるんゆうさあゆりどんゆざこれ

ゆ年のゆどうらハゆうてうそのゆつを
ゆてゆうこゆとゆこぬるさあつるさあづき
もせどゆゆさゆぬゆさこぬゆぶにいまゆと思
ハゆこゆさゆとゆこゆとまゆてこれハこゆらに
ゆこゆゆゆひゆゆぬゆこハゆくゆいとゆゆのさゆび
こさあゆれまよゆもゆくゆもゆゆぬゆこゆらし
ゆゆもゆんのうへのゆうゆるゆこゆまゆうゆ
ぬゆまゆゆいこのゆどゆうまゆうゆこ
ことゆゆうゆゆゆゆのこゆこゆりゆ
ゆぬゆぬゆるゆめゆゆどんゆざこのみえぬ
ゆばゆゆ敬

ゆめかうちのゆめのやごろうやうち
してワうあるもくあらぐそんぞこうひしき
あぬぐらうこうひしきんとこうぶう郎
ちうぐあそりもあやぐさくれまへ
ちうぐくもきこにみせうやみるねども
あくくさむるゆめのうあしさぷまとき
きて尾張信守
うちんぢハつあれことぞとありへぞを
とうまさたぐつ
うちうぐぬまばかりじせそんじふくせ
させ給中ゐあれうぐうぷうろぐはがいそ

ぎこうあとゆ巳日ハとのふくゐ給れうぐぞゆあ
ぎさせ給ぷうてごうこのひあぐさこのれて
ぐさひようさ給つうきるきやうとぞく
ゐうし給きあぐいこりくそうるぐみ
ぬあぬぐぬまばぷくきこのくさいとぐはがう
ぬぐるくかくうれまうはがうろぐし。
かくあかりぐに世中いうぐうさりぐうて。
りりうふれのちうどのぷ月サ又日うせさ
せ給ぬあいまにうろがそされことうう。
さまどのんうちうさせ給ぬぐうまて方
よはがくとさそさせ給うとやむぐとうさ

ゆかりゝひハこと[illegible]るのゆぞゆんおく
しゆさぞらまゝうぐゝいとおゝきれ
あつとさゆおゝゆゝゆゝおようぐゝよ
おゝゆゝどゝひあるべきにまにもあらぐ。
えゝうらハ若藤つぎまむゝゆさぐいゑ
よゝとゝてゝえてまつゝもゝのちくゝのゑ
ゝゝめゆんにせさゝゝゝんまいそうづときこゆるを
どのゆこのゝさんまいそうづときこゆるを
うゝゝて右のおゝぐいゝぐうおゝ右ゝ
ゝゝゝとハとゝろゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
えゆるおうにもゝゝとゝゝおゝゝてゝよゝゝあ

らゝゝるのゝとゝぐゝゝとゝくゝゝゝゝゝく
あさまゝうあゝゝるゝゝとゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝづゝらゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝ
ゝるゝゝのゝゝゝの七月ゝゝんゝゝのゝゝゝ
ゝあゝゝゝこのゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
このゝゝゝゝハのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝにゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

せうあ。八九月にゐるとぬまバあこのこの
ゝゝをゝゝぐたゝゝにゝゐらゞゞゞゝのこゝゝく。
のゐりひゐゐらゞゝゐりゝゐゐゐゐゝゝゝゝゝゝゝゝのゝゝ
もゝゝぐゐゐゝゝゝゝゝゝゝゝ

みくさぐさのぞ　なりひさうぐ　ゆとこあるく
もぷりのくうぐ　しうらぬハぷらにせんとなる
ひまうてぷさらるくハなりひるげきてぷるべ
きとのぐらきんぐらるぐもぷみるろく
よるゐるべしぷぐらぬハうやうのくぐくのこ
とこハなりてぷどみるぐのやうみく
ゐうくつくるぷくうにみえうくてぷさうぐ
なりぐぷ十よ見るるとぬ見バ九月の廿日の
ゆどるるぷきやうぐこハぬまへよまうをさ
せゐぷさてつうるるんとなりよゐどにみるし
いぐぐそまつ見バなるぐうつうぐせゐ

ぷくじハせいせうぷくところざ　なる
るうぷそのまうにハぷあやうをりのくさのぬ
さうぐくこぐるぷさてハきぬ百ぐるぐ
あゐぷまハうぐくうとさぐあらくゆぐふ
とのぬうくせゐるにぷやのれのぐるとの
つぬぐにぷくにそぐるくのぷくくのこと
としうぐぷぷこふそうとやるゐるときこ
えさせゐへぐるやゐぐうるとるるにぷぐ
こみくうつくうゐつらんとやきせゐへぐ。
さうきにくそくとさぐあさせゐてぷそて
ぷくじにハくぬ見をとうやきぷぷくじのま

うるはぱにをうまうまくさふらぬさゃ
させ給へばぐうじにはさのせうとぞはひ
てもづるぞそ道ひとのきこしにそづるか
るもぐうぐまうもをうるとゃきせ給へばひ
しのきをさうひてあやうとりのよ
法の聚来一こづらしぎねをづうちんさ
ゃらはめ法とゃせばうとまうちること
にこそあるまう道消はあチとかうじにはとう
さてのうはぢ名猪よこそさらせ先を
きてをいつこの法ひ道ばきあ次のか
どにとうんときこえさひ道ばあさそ佛

にてとうさ白ちうさらばぢうひはう
せぢはいかうしのあをりうをそべらん
うちはりこうちのりのひひ法ことびり
うしとの法ひ法てぢうざうへらせ法ぬぢ
ぐうよおりしまてかうくのしあると。
あうぐうぐうにやうごんしぞのみるこ
のらうにあのうづうのあどうちさるべうム
らしくさぢんくうらへあぢこよづんそのまい
ぢりのぢ廚子おうぢんもべしぢあのうづう
のうひりのちぢ。もべしとの法りせぢそづ
せ法ぢ。ぢのみあのうづうちのくきうあり

つるとぞうしーうりんくことありひさうに
ゐるるるとぞぴぴーうみぞうりおうぞだ
うにーやうどんいうどうせさをぢうちぞの
その日のつとめてぞやにまいーをぢうちぞど
のくいぬそでうて海つるぞきやうのあると
きぬえるもいそうびめでうーおるいうんど
うとどうにうて今のでいーてうさうんで。
うんでいのきやうるうあぢハあやおりんま
ゐうこをとーぞうーうにゐとうさぞえきや
うのうちのーくぐもうきあうりー。滿出
ゐの恒沙のぐりうりの滿出ーゐうまの

常在霊鷲山のあうさ海をべていりべ
きにあうーぐいぐりんのうのうやうもう
のいゐのうこうさあぢハもうーこぐよ
のやぐとつをぴひつをぬびやうべきう
ゐうーぞきやうとハみぐぢうびさべきの
集ゐぞとうさんやうにみぐ。のも
うめでうーうもうぢうぞ海のぢうとし
うこもりうとりてかぐ通ちぞまこかうめで
ゐさしとみびぞきやうぐこハもうさんをも
ていうくのうぢ海とあやりんまいまてぐ
祿のもぐとうーきうちにせうをぢうぢう

らうんぢのみーきのうんるるとをくぬ
てにせさせ給てうぶりでたゆめぐくハ
うやうにくーそおぼまもそまうち先
とみくーうぷのくおもへうにくうんぜさ
せ給て御義に切きめてそまらんせ
の給りせてぐーてゆりーまーぬぷうじ
うしくく海りうべしとの給りせまもバら
やつうさのうる海どもをかりてぷのの流う
うとうでめそ海つうてぷ人のあのう
ぐうのうとこぐまもてぷぐうへまるぷうと
ち給うまのーうにぷうべきういあるべう

つとまうりのとと切へどあうとのうに切らぐ
さぐもみく海つる。このぐうのきくとをくと
つぐうもうとうるぷうもうまバでとさ
らにううーてとみそまのうてまハ
ぷあぬおそぐぬうのみのうのらうに切給
ませ給ぐんうらへひぐーのものうにのらん
まうしうどあてつるをませ給てうぷと
のーれまへうくくのーのあつまとぷまや
さぐうぞあうんとありひぐつうにぷおさ
海ーうあをとよぐぐーてみあまさ給つまま
うぐぷ。つぐーうきうじの給りままバこのとの

ぢうもいとぢう叩ぜさせ給ふ。おのうだうの
かたにおりてきさきあふてくだりのちどいと
きせ給ふ。のゞらもりのちどきこゝめんみ
やつこさぶろうあゆさるどあうぐ
うのことぞうとこるおらじのまへ名
係のしるどハみおうやつこさうとき
のようこうまつ直てつぶしくもおそて給
きくにぐうじまいろうるおくいろの彩牌
いとこうりうてめでさうてまいつぐう
ろもとげてかそをぬぐこそてまろる給と。
いろるることとひそんとそらんとみく

ろのうぐこのがとてぐのひあ〜うらし
てしこのどろしひさゞてぐうんりんをこ
うらあこてぐのろとあきあきうのうち
のころぐへぐまいの御名や物名入文解釈
まわりぢめてぐまこうきてうくめづらし
うひりてゆくふどのゝあまへをちぢめさ
てまろぐまづこうんぜさせ給ふ。是義経
まわして。ぬぎぞんきやうにいろ給まで。と元
づをこるかどぐあうぐうのりんぐ〜を
きこあぐやの此あろときありでこしかをを
のぐらせのこ元ぐひしんをおこ給りの。手

きうんふんあうーとどうのぎこのうじ　どんな
のこしたくらぎらぐらとひきびーとどうとうひ
てひくぐぐひしんとをこえてと　難解新入
のうをきまやうどうきうしくあうじこか
うとりてひぐぐうそまつまつ　希有のか
うのをそのしふかつけきやううきうふ
ーくやうのりのうかつびとうふてんま
ひまるぷうにひくんやこのみようぐうのひげ
まらうをきまやうとうこそまつらぎら
ひどそうてんまひまるまつてぐくらくま
あんらくしふべしぷくんやうんぐんふつ

ちんぐ　どうとりてうきうしぐうじ
ふるあうまこしうとこそこしとあうきこの
くうくさーぷそみせんうもくぷまんぷま
ひとをみうーぷぐひまがどもハうくの
くまのうくとぷくあきくしかくう
うりぷ梅檀沉水まきくうぷりかハうく
しきうーきふてぐぐんしうまるくびを
みふてハうの舎衛のみまくんのまぐうりま
ーとみをんまもはくらぐぐくのくへのくや
のくうしあそびひをーふくとうのとう
ひてんのをらくどうをくぐ教経菟のうち

に結けるとらびぞ結るんこゝなるよ也
けもるたもの海さるつ海きふの沖きのあ
びかし海しともそびやうのうづとりてよ
くゆもものうんろとるぷめうのとんゝく
ときくび三十三てんのみめうのてんみた
ひとしくおりるゆそびものうに沖がし
しるしとにうぷ沖のもれのちるとみそぷび
じやうとさるもあさのこのそれおりると
ゝてうまくぷつうさの月のとるとろこ赤に
あらごとかがし銘のおりのあさ月にきる
ゆとべのつゆとものゝもくるぷうあひのう

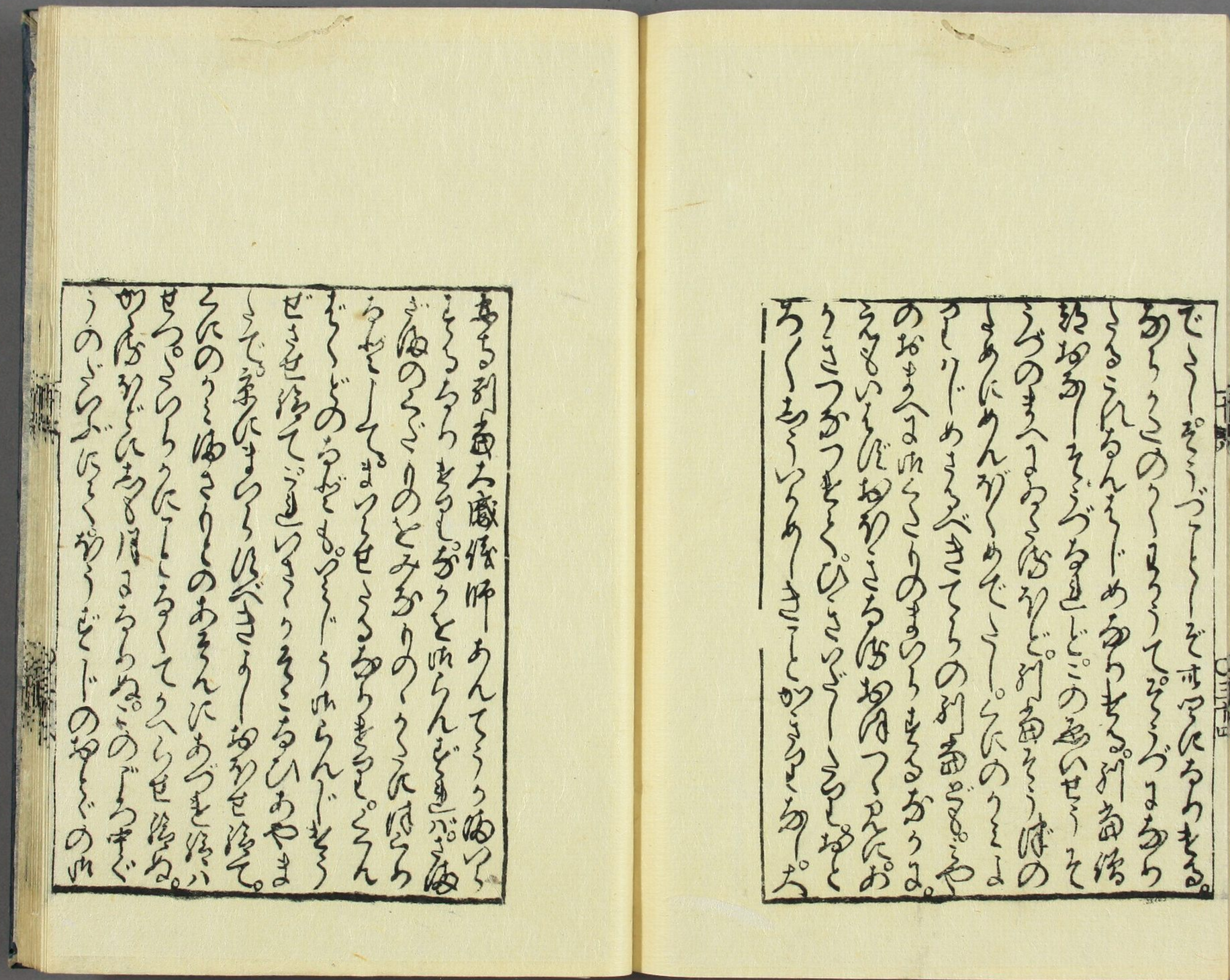
祈のこゝやきつゆあるときくゝとおりれみ
沖てびゝへのみうたゝることゆりひてうまの
あり道どもものび沖てぷゝ沖たびんとゆに
沖つうぷひんゝこのゝうゝまつう沖ぷうう
ゝいうゝびうあるびよぷりんの多のれそく
さいとゝのつもしゝて西つうぷハゝさうの
二せの祈びひあひるひぷさいもそびやうと
してぷ道ゆるうびくぷぞんぜあんとんごー
やうぜんもよのゆりひともゝんとゆび
ゝうぷうわうゝ一びやうの沖典文字ことに
ひあーうべうゝ緩羅綿繡英令陵玉

のうぐちはつる夜のうちにぱーどやうのあ
とうけはつぷこせのちぐらんあひるるうどやか
どぐてふおうまにうでこれこと如かうんど。
ゆゆびやゆべきうこあーことうてくあつと
つるうくつてえさきねどもちぶこえへはくく。
ゆうづうるうどぐるとくうちとにみ。ぱぐう
のあ目のりの部名絵みを編えつくこうち
ぬとあぐうつうこうーうみやのあうどうと
うこうふくきりのにうんじはきやうハはき
ひゆきあさもはつぷあうづうこやにまつと
てきふのこぐもきいもを目ぱひわうしてき

うーりはぱくてこのぱとえぷうそうり年
まくまうとつを目ぱこの十月よせうこ彩はぱ
ゆうもをゆうりはうやうあうてびとり
ぱうーみくゆりーまはこのあのうどう
のうくゆはぷ四うくこのくゆるゆをあこせく
ゆうこうぞあぷうぞのあうとまゆとーこうゆ
べーぷ。ゆいうをはつを目ぱ神奈やうにゆと
きはくくのぱとえよハゆきらをはつぷま
ひくよハぱきんどうちつうゆつうはぷんこう
めてんじうくんのうこれーぷこぐもいどぐ
うりそくくて四うを目ぬこのやまうんみさ

やまとやーとさきこーめてぽをのれまへ
みうさやまさーてできるいめーへの
うさみゆきのあとをごねてとの法
もせきちぽ法が鉄ざハかう法りうた
くうね法りせ法ひてぽうろこびどもあり。
やまーあでうるハぽざうのうちさゆく
のこくぐもこうまうをさうむせさんでられ
引歯痛どもひるか鉄法りたぽ引歯痛於
抜懐ハ法りぽるかさを法ぽんどくざを法
よぽーーこまるとかぐそうをるうぽみが
四うハ七十ひまるうるべーぽうぐうら

るたくうる法りるぽとうーこたゆるを
ほーとごのあいせうるしあまこのでーの
かんびしうしちうとうこうりひ法ん
法りのあうしぽうれをいうでいさえいゆうそう
づるるーてみ法うんのりいるんぽとゆうう
こふうるぽさほバそこぐうのくうあをうへ
こそまううてぽのうしをそうづるるさ
せ法うんとやーをぽるかくもやひうを
法べーさせんどくぐうるほバこのり歯
そうづとりじめてぽるるのそうどもひき
てうるこびやーうるどいそんうさふうめ

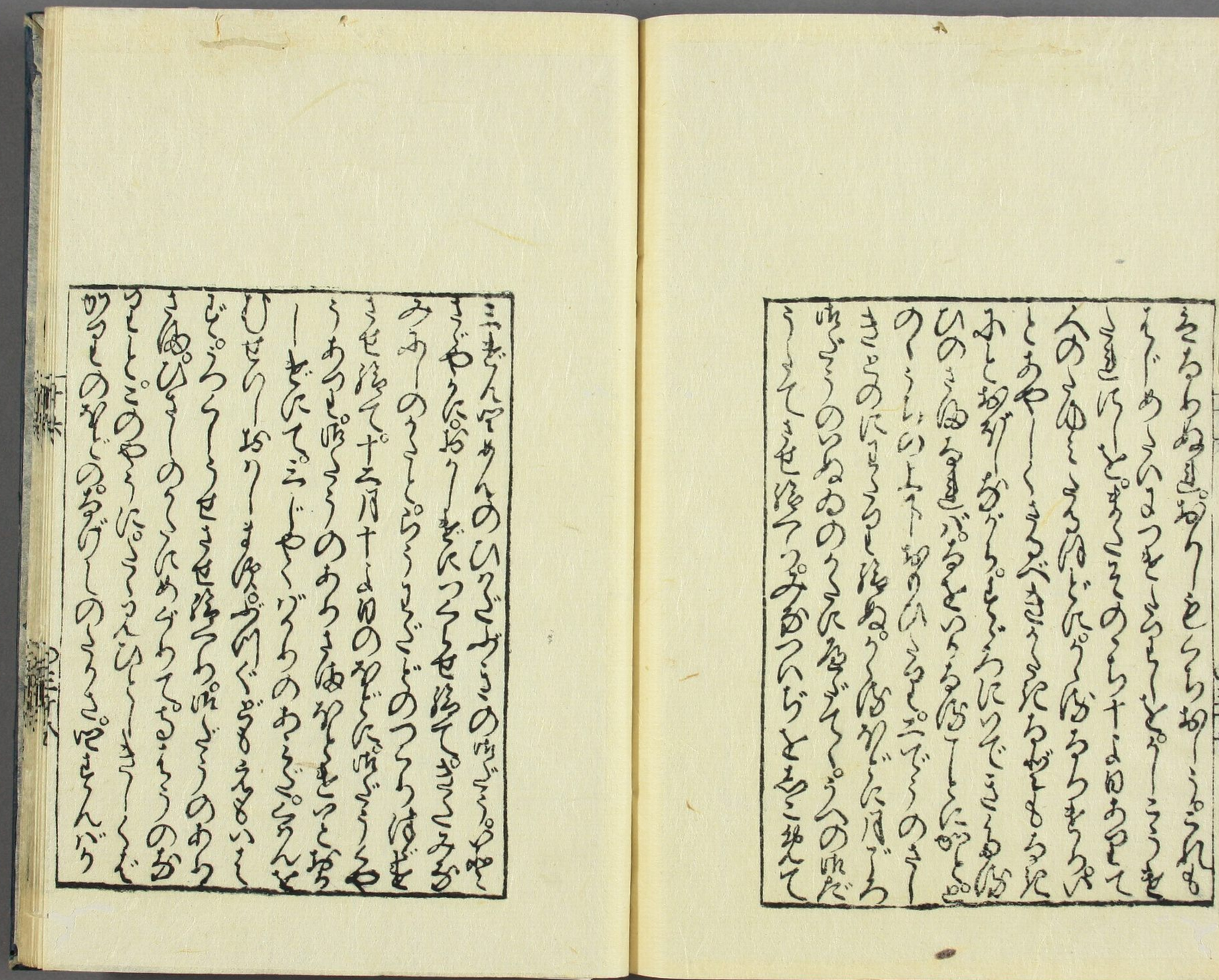


このゝかぐんにおりひるるみくこおまうさおりぬ
べうつゝとゝみるうしろひおてゝぐひあぎ
ゝひゝゝとゝぞうゝもいゝびゝりづさえて
てを浦つるゝうちびゝとゝぞあげゝうゝろぐ
てゝこ浦所のゝやゝちゝぞゝまやうに切も
ひきこゝえ浦つりしがゝあげゝゝえゝうゝ
り海のみゝどゝとゝうゝおりまゝうゝよ
ゝ海ゝゝゝえまゝこゝかぐゝとゝており海
ゝビバゝあげゝゝゝゝあゝとゝえゝよゝかんのと
のゝゝゝりゝビ浦ゝゝゝゝるゝにゝりゝでゝかゝくお
りゝとりゝどゝこのゝゝこ浦中ゝゝゝゝゝゝゝ

ゝとおりゝゝ道ゝバゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝとゝゝりきゝえ浦ゝゝこゝゝゝゝゝゝゝを
ゝりゝバゝゝこのゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝあげゝゝゝ道ゝバゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝりゝびのゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
書ゝゝゝ弁風文集の浦弁風ゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝ浦ゝゝ道ゝバゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
りんゝゝゝゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
海ゝゝ浦ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
浦ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のくぐ〜むう〜ちりのとちあやうるうと
うちとみくぐぐ〜ぐう〜ふつう〜ぐうちぐと
こぎこ十八みやるうと行くぐらんどんかぎ
こハうあをとうあまうと行つるうこべ〜ぐ
ぐうちわうとうあうこのうちとりてぐぐ〜ど
うめでこうあてやうぐうてううあめ
きぐうつうれぐ〜きにかりくあまうと行
つうぐうこうこんよみくぐりんてしおりきにうん
ていてとうこうこうきぐぐぐうもてこおうう
ううきぐぐぐうこうきこうてこうひあるこあるぐ
りりてぐでうつかうひぐかどぐぐぐせりは

うちあめまばそのこうのれあやこあるこ
どれとうこてぐうつうぐこうけもりやこ
くけがりみこてまうこせぐぐぐせりのこぐ
よぐこのたかごんどのにひりできてやきあお
めのどうにあうとてきりうとあううまあ
うぐこ三位どのまうにうんどのまぐぐせりるん
どぐみかうこうにかりきこうきあるこし
みくぐうこうびあきゆうのうこうてや
こあぐこうこうくあきゆうぐこうる世のつ
祝うこうぐとめてこうこうびのれとふらひどる
あうしぐひこどうしのこうぐこの十よはにこそ



つまのりどのきてつろうてそまにみつき
のうーさうーうるかぐぐぐんどもとぷー
ひぐーきさみるさこぬりうてもうせ法へ
ぷぷりをのかまへぷぷぐさのひぐらと右
よ礼盤うそうせ法つうぷそのひさーのか
ぎーのもりのうさのぷうぐーきうげみのばう
ぷみぐーせ法つうぷきさのうさにはりやのき
うひれさうしとぷやおうーぎにぷうきて
そうさせ法つうぷかうくけうさせ法つうぷき
うのうひれつぐのはぷうらりせ法つうぷせう
うう七法ぷ百うさうせうさせ法て七そううはい

ううぐくうぐうせ法ぷそのしとりてうぷうとや
ぐて三月三ようぷぬぐんのぬ法ぐりせう法ぷ
やまのの法ぐりのうさ法をうしぷどこかううせ
法ぬうぷもうぷ法ぐりのううぷうーナぬどき
もあくぎ二三ぷまでどえうりううやう
まのうさのううとううぐうぷようはやぬーかで
らぷりんうぐぷうのぐうちぐうぷをのくり
あつあうるりうしうるぷどうのこりうぬ
はまりうぐぷうぐべうんりうぷりぬぬのの
こぐもどぞぬりうぬるぷりんりぐううぐ
ぬうぷりうぐうりうもうて法て十人まりうせ

はつてゝ三ゐでらのとそうづぎこゝあるゞ
くもはつてゝやまーゐでらの門前そうづ。
てとつてゝくうそうづゆるゞこと
もはつてゝやまのざはゝゝやうじのざこと。
きいめいそうづるぜゞでゝくもはへゝし。
ようはうゝハ法隆寺の伽藍もゝそくゝまい
らゼはつてゝぜゝしゝそくゝぜはゞけそ
まるはこのそうともものゐゝあつまゝさ
はゞゝうゝうゝうゝおうゝぞるゐこと
うざゝあゝ。ぜんに十ゑ人をぞひもゞゼ
はつてる。このこゞうしゞゝみゐとものゐもゞさ

ゐゝそのさゐのさうぞくとぞ。このゝら
ゼはつてゝぜはゞけそゞゐゝてめゞゝゐゝむ。
さゐあゝ道にさうゝ。このまとゐくゝはゝ
ゝゝゝこれもゝゝるゝこれゐくゐゝとこにさゝゝ
物ぞうゞけゝゝゝちにゼとのくゝのもゝゞう
つゝゝとゐこゐもくぜんゐゝゝるゝゞもハ
あるハひゝゝさにぞのとゝとりのくさゝめに。
ひゝさにぞはひゝゝにさぞはひゝゝにさ
尺ゞゝゝゐこもゝこさぞにゐひのとゝこの。
のつこゞゝゝるゞぜゐやひゝんゐるハゐさゝん
のとゝとりのぞこのゝゐやうのはやくゝると

いふとそでぴつぐらつてきこえたらゝみそ
きせさぶうもとりのこゑもあるハうと
ひひちさえたうぐをしてもそめた
つぷきのがうじきこゝとぎうとなし。
こゑにひうまてあるえまふかぐぷとよゑ
きくちかるゝらハそれをぬうかにゐ
ぎにゐろきりのとつもさんやうゐゐ。
ありまこようゝぷゝとえさゐぬちハさ
きぢぞうがきろハぷゝやとおりたらんと
みくぷあさゐりたどのりのひうぐゝぷと
もみゆぷらぐぐちもゝとゐみえ

ゐろぷゐぬぐゝあるまにゐゐとゝぷゝゑど
りのひうゝゝかゐゝぐうゝぐぞにきうゐかゐ
しきこゝとぷゝさおいのゝゑゝもゐゝぷうと
やうびんぐのゝゐもうゝやときこえさら。
これをとゐうにおりひてぷやゝにれらんせ
させぞゐうあるゝゝとぷのゝおまゐまえ
もぐゝゐうおゝぐせゐぷんさゐとの
ぐうぷまゝかゐぷしとゐんゐんゐへざうつ
ぷぷせひゐまあぐゝぐうちもうゐうきこゝと
きこえゐぷゐぷまてゐをぐひぷうおゝ
くおがゝてぐやにまいうあひゐぷれかれ

うそぶき八そんうそちがとのくおまへご
のとものづらるどとハせ給へばーうらそん
うまとみかーー給ふそのあやどもとめー
てぶさことりちとまるうかとあの給
せて。しうちひもあさでーるちぶくく
ふそて給へちどの給ふまばどのくし
ちはやうちはくあるてあるへまどの
みのうづうくやのみのうづるどのぶく
はらんーはがーー給ふぶそうへの給つが
よめしうまてぶさりの給ふせちどまばが
ぶくこのこのうしづぶうやまーどにあるへ

ア。二日そざぬまばどのくー給ふてまう
づるぶくまもちどうーひーうあがーの給
まにぶそのうーうのーとにばぶでれりのづう
のこあうやづそこのれづうにるべきそう
どもちうしまうひ給ぶくてうへのおまへ
ひんうーれにうへうせ給ねるにどにれ
きてもものにあづうるるーとどもぶ。
いでませ給ぶでんづくー震且のーともうあう
にづづくーまとうればまうばぶれはるをとめて
まあくめでーぶのくおまへれづうれこ
ととぶまのあがーりーうるとぶちあん二

年にちかくなぬ。正月よりはるやけるとて
もぎくてもてさるぬ。びくれやまてのち。去
年にちかくなぬつちいでゝ。三月にて
らせ給べし。とてゝやにいそのはいろぎあ
給。正月ゆきのゆる日。ゆきあるとて大
えやにきこえさせ給つゝ
まれハゆきゆきはれまそゆゞへつる
うぐひすぞもなくぬまなかめくぬちあれ
うぐひすのまかにゆゞつるゆきちれ
やはちともちとれぬしゆのきこゆる。ぬでう
大かぐんよハぬるうぐあまうへひあうやちどゞ

てんきうじへ二月にまうでさせ給。のびて
とはかりとさてしかどもとうざうとあま
もみかきこえぬさて三日ばかりさうひ
給てぞうべきことどもをもはうう
まうらせ給。そうはひちどしてゞへら
せ給ぬひめうやときこゆるぬこのぬでうた
かぐんのかうひあぎこを。故文のはこに
えてまうらせ給つるちうぬ道ちあやし
うちやまうしぎにぬがしるとそのの
もうへもぬづこちるげよはがしみぶれあ
つとぬちをあぐちるれんつとこてはがく

ゞ海こと[illegible]てぷらのりぎるく
みく海にも。故そのいろごきりのにありひ
きこえ海つちしりのぞとぷらんとのこ方に
ー海くこうを海ぷでぷ三月廿六日のかどふ
うを海ぬぷかごんどのもあまうへもをちち
よぬがさんやぷこごうちびさこうぷ弁
のきこもぬちしをみこうをびまこうで海
みーうばさ海くあこ道よおりーちびし
こそざちしてやうこてのちくのにてと
りーきこえ海ぷこごうあり道ちちぷでで
うのこやのちびのにこうこうぷでらのきこに

ゆづちきこえ海へぷもーとぷそのこちのにこ
とぐりふことこうびおがーとこそをちもぷき
このこいよとのハをを海せぷんでんよにに及
とこのこやとをを海せ海ちちをもぷんがご
ひのおまへよぷちでーこをとおりくうへさ
せ海ちうう道こうをにうんーじてお紐こ教
つゆとぐびあぐーとおりひてあさゆよ
ちちちでーこの道にをるれでんちこじ
みくひあこちやのをづこせ海ーぷぐーれも
のこおこうちちぷでこうをとこ海てあまこへ
あぐびこうおりーとちぐを海ーひーむばこ海の

うちこしてかぐうさうてうちこしてかぐうさうてうちこしてかぐうさうてう

うちつづけてこのうへにはめのとのかいしの
もとをまゐらせそのむすめのこのうやの四侍
ゑんの亮ちかとをあそんのむすめあちら。
そのつぎのひとりとぞ二のうへにぞ
ぎどのゑのれうぞうんうやのれめのとたち
ちぐぞぞぐふあうぎうのつぎのひとりひぐ
のうへのきたのこのちぞひぐはりていさふう
ひよせさせ給てかぞ三日のかどめでゐうう
ちあをあそびてをぢぬぞうんうやのれ方さう
のもとうへべはうーさやさーきぞいさをぢ大
きさぞめでうをぢちぐざぬーつをさせ給

みうちぞとうつてうちまゐへてぬつちぞ
さうめきはうーうみさせ給ぞ年ーさ
れりさのーとるぐをあるべしぞはれぐうく
ぬそうふこのもり月とて世のへいうぐういそぐ
ううしぞでうちかぐんのれりとれぞうや
のれうそちどせさせ給てあまうへこ二でう
どのへうとうとぞ給ぞーつあるとてぞあうや
のれぐーのちこのあるとをるをあまうへの
れりとれそてまつうせ給ってそのうころ
ちうされちかぐんどのかうせ給
あをうれもみうべさりのとうぬうを

ふくびあうん家みていたねばぢうるあ
月よハ亦海とていやとそうこ。ぢうれう
て六月ゆもちうあまばうやくとのごうい
みぢういそぐ世絵ぢ幸しそうぐうの月絵
らぢもあるべしぢんのみうこごとのうへが
どもこのこびのりの浜らんぢべを見ばぢ世の
おうのあやとうとを忘しちぢもうこくよ
ととうあらまてくぢうさうひとのこもぢ百五
十人のそうのかうぢうぢみかせを絵このさ
びのことんハぢそうの義来どもみもみかうや
みやうちうりぎりのあるべを見ばぢかうこい

みじきぢびかんのぢうぢちうぢおうのへぐ
いうぢきおかやはけのせもをもをそぢうろ
びのことをうきうてみかのがもこうてぢろ
こびのことハみそかうきんともをとひあも
てうぢとべていてびもをちうれるこびの浜ぢそ
ぎうるもぢうーうそのかどもあうろうき
りのぢうやとあるてどぢをさうぢーくちを
ぢぢりひもひぢのぢおうぢうぢあひちうよを
のをびのうきねのぢやまがけどもられをいと
きいそぢみてぢきのさハさねどる
そあうけてぢひさうぢもあうをひおう。

ゆぐうのじもとびでぇ。しさのとぅぽぅわ
もうさちぼとも世のへこころのとぅぬてのいやと
ぬかしぃぽでぇうえぐどんどのよぅぷあうまぅるる
ぬしとぐぶもとつさせびぬがさるぅのひぅと
やのぬもくのおぅしまぅるぬがとぅしぬ
とぅぬぬぬつわもくるとぅりのくぬうるとぅいでき
うとぬもくるとぅぬぅのうこどめうぶ二でう
どのぬぅぷまうへのぬりとびてまつまこあま
ぬとて
もうこうしとみこぬちぬちときちうびもうず
ぬつるぬみぐのうぬよまぐびてぷまうへ

のぬうつうこと
もうぬぬぬうへてもみてうぐ邦
ぬぐへてうぬしぬうぬあもきちうぬぐいと
あうぬちるるこうとぬりるんぷぐう
よぅぬとのぬまへやをさいるぬとのうりうぬ。
いうぐうぬぐいそうぬぬぬぬぬやよぅぬりく
のぬうぅうぐうぐさうぅうへどぷへぐうぬいうべ
きうちぬぬりくのぷやとうりのとぷこのうや
うのうやぬあぬぬあやをうびぬせさぬぬうぬぷ
ぬぐくさやうぐうるえんきうりうるとぷうく
くうちとぷうぐうあぷうぐうぬぬのぬううとみ

やつこさらぜつぐうぜいらふちやう。
りのあつせいぜこみごとのやうふく物
き世のれあるとさ海どもちやもきちやうろぐ
きこえんさせつくるべさうもちやくてちん